

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsへの意識を高める「未来に向けて」

巻頭1-2で、SDGsの17の目標とその実現に向けた世界と日本の取り組みを紹介しています。帝国書院の地理的分野・歴史的分野の教科書でも同様のページを設置し、中学校社会科の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけることができます。

↓巻頭1-2



未来に向けて よりよい社会を目指して



↑1 阪神甲子園球場の屋根に設置された太陽光パネル(兵庫県西宮市) この太陽光パネルが1年間で発電している電力量は、ここを本拠地とする球団Hが1年間にこの球場の夜間試合で使用する照明の電力量に相当します(→p.198)。

↑1 阪神甲子園球場の屋根に設置された太陽光パネル(兵庫県西宮市) この太陽光パネルが1年間で発電している電力量は、ここを本拠地とする球団Hが1年間にこの球場の夜間試合で使用する照明の電力量に相当します(→p.198)。

↓3 海岸で清掃活動をする中学生(佐賀県唐津市) 海岸には適切に処分されなかったプラスチックごみが多く漂着します。プラスチックごみは海の生態系に深刻な影響を与えています(→p.196)。



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう

↓2 人工巣塔で飛ぶ練習をするコウノトリのひな(兵庫県豊岡市) 豊岡市では、日本国内で一度は絶滅したコウノトリを人工繁殖し、野生へ帰す取り組みを進めています(→p.196)。

この教科書に登場する生徒



ゆい けんた

これからの社会に向けて

私たちが暮らす日本も含めた世界の国々は、持続可能な社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals) とよばれる「持続可能な開発目標」に取り組んでいます。SDGsは、下のように17の目標からなり、世界のさまざまな問題の解決に向けて2030年までに達成すべき目標として、2015年に国際連合で採択されました。持続可能な社会の実現を目指す取り組みの例を、見てみましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	



←4 火災対策の放水訓練をする合掌造り集落(富山県南砺市) 世界文化遺産「五箇山の合掌造り集落」がある南砺市は、地域内のエネルギーの自給や農林業の再生、次世代の人材育成など持続可能な地域づくりを目指した取り組みを進めています(→p.105)。

11 住み続けられるまちづくりを

ポイント



他分野リンク

QRコンテンツで、このページと関連する他分野のページを見ることができます。



かえで しゅん

→5 廃材でつくったアート作品(神奈川県川崎市) 障がいのあるアーティストが中心となって制作した色鮮やかな反物が、川崎駅に展示されました。この反物は市内の企業から集めたのぼり旗などの廃材から制作され、展示後はかばんや小物などに作り替えて、販売されました(→p.139、161)。

12 つくる責任つかう責任



原寸大



福村ガクパーク&レールライド
2025. -1. -6
2025. -1. -6

←1 電車を利用する観光客(左、神奈川県鎌倉市)とパーク&ライドの切符(上) 観光地が集中する鎌倉市では、交通渋滞を減らすために公共交通機関と協力して、車から電車やバスに乗り換えて観光してもらう取り組み(パーク&ライド)を推進しています(→p.200)。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

↓7 避難民の生活支援をする日本のNPO(ウクライナ) このNPOは、ロシアの軍事侵襲から逃れるために故郷を離れて生活するウクライナの人々の生活支援をしています(→p.193)。

16 平和と公正をすべての人に



「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

SDGsへの意識を高める「未来に向けて」

→p.178

ポイント

6つのテーマにあわせて、関連するSDGsの目標も明示しています。

ポイント

「2030年のSDGs達成とその先を目指して」というコーナーを設け、SDGs達成への意識を育むだけでなく、その後の社会への意識づけを行っています。

未来に向けて 環境保全への取り組み

1 ごみの焼却炉から金・銀を回収(神奈川県相模原市)

神奈川県相模原市は、2021年度の1年間に一般ごみとして捨てられた電子機器などから、金・銀それぞれ約15kgを回収することに成功しました。市内の南清掃工場の焼却炉では、高温に熱された砂を用いて、ごみを蒸し焼きにしています。ごみの多くはガスとなって焼失しますが、電子機器の基板などに含まれる貴金属は燃え残り、焼却炉の底にたまっていきます。相模原市は3年前から焼却炉メーカーと共同で、この焼却炉の砂の中から金・銀を回収する技術を研究してきました。その結果、21年度に回収した金・銀は約1億3000万円分となり、回収費用の約1億円を差し引いて、約3700万円の収益を上げました。収益は清掃工場の補修費や環境啓発活動などにあてられています。



↑1 焼却炉から回収された砂や金のレプリカ(2022年)

2 日本最大級の電力消費企業の脱炭素への挑戦(三重県四日市市)

三重県四日市市で創業したA社は、全国に約2万店舗を展開し、日本全体の電力の約1%を消費する日本最大級の電力消費企業です。A社は2018年に脱炭素に向けた計画を定め、店舗で排出する二酸化炭素などを50年までに総量でゼロにするという目標を掲げました。また、中間目標として30年までに店舗の使用電力の50%を再生可能エネルギー(→p.198)に切り替えるとしています。A社は二酸化炭素排出量の約9割が電力によるものなので、省エネルギー設備を導入して使う電力を減らしたり、太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーへ転換したりすることで、目標の達成を目指しています。また、電力会社と連携して個人の家庭で発電された電気を買いとり、買い物に使えるポイントで還元するしくみも導入しています。20年には使用電力のすべてを再生可能エネルギーで賄う店舗も誕生しました。



↑2 壁面に太陽光パネルが設置されたA社のショッピングセンターの立体駐車場(神奈川県産南市、2020年)

NEXT2030へのヒント 2030年のSDGs達成とその先を目指して



私たちの生活は多くのモノやエネルギーを消費して成り立っています。モノやエネルギーを安定的に確保することは、豊かな社会を維持していくためには不可欠です。しかし、人々の経済活動の拡大によって、地球温暖化などの地球環境問題が広がってきており、大量消費を前提とした社会は持続可能とはいえなくなっています。これからは、地域社会や地球環境へ与える影響も考慮しながら、モノやエネルギーをどのように作り、使い、処分するかを考えていく必要があります。私たち消費者もひと事ではなく、ふだんの生活や消費活動を見直していくことが大切です。

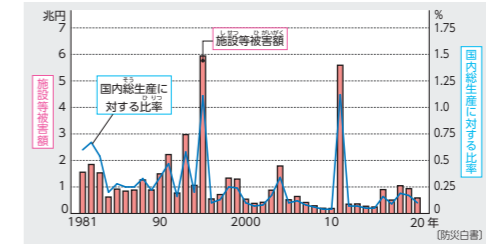
「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマにあわせて特設ページ「未来に向けて」を13か所、本文ページのコラム「未来に向けて」を13か所に設置しています。

←p.179

未来に向けて 自然災害から社会を守る 社会資本の整備

1 自然災害から社会を守るために

日本では近年、地震や大型台風、記録的な豪雨など大規模な自然災害が相次いでいます。大規模な自然災害が発生すれば、人的被害に加えて道路や建物、電気などのライフラインの被害も発生し、経済活動に影響が及びます。工場が倒壊したり、道路が寸断されて部品の調達が困難になったりすれば、生産活動の低下が全国へ広がり長期化することも考えられます。防災設備を整え、自然災害に強い社会をつくることは政府や地方公共団体の大切な役割です。



↑1 災害による施設などの被害額の推移

2 過去に学び未来へ生かす水害対策(岡山県岡山市)



↑2 豪雨で川が決壊して冠水した道路(2018年)

岡山県岡山市では、2018年に48時間の雨量が306mmを記録する豪雨が発生しました。岡山市の位置する岡山平野は標高が低く、海や河川の水位よりも低いところにも市街地が広がっています。そのため、堤防の決壊などによって浸水した場合には、排水が難しく復旧にも時間がかかります。18年の豪雨でも、床上浸水と床下浸水を合わせて7000棟を超える家屋の被害が発生し、水害被害額は約719億円に上りました。一方で、以前の台風



↑3 雨水をためて水害を防ぐ地下水路の建設(2020年)

において浸水被害の多かった地域では、地上に降った雨をくみ上げて河川へと送るポンプ場の整備など、事前に水害対策を行っていたため、大幅に被害を減らすことに成功しています。この経験を生かし、岡山市は下水道施設などの一層の強化を進めています。今後も、全国的に記録的な豪雨が発生し、水害が頻発することが考えられます。そのため、豪雨や水害への備えはますます重要となっています。

ポイント

岡山市での防災への取り組みを紹介し、社会資本の整備について考えられるようにしています。

NEXT2030へのヒント 2030年のSDGs達成とその先を目指して



ひとたび大規模な自然災害によって人々の生活基盤が破壊されれば、水・食料や健康の問題、経済への影響など、多くの問題が生じます。そのため、自然災害への対策はすべてのSDGsの目標に関わるテーマだといえます。自然災害をなくすことはできませんが、その被害を抑えるのに必要な社会資本や体制を整えておくことはできます。また、これまで多くの自然災害に見舞われてきた日本の政府や企業、地域社会には、自然災害に対応するための知識や経験が蓄積されています。それらを世界に広めていくことも、SDGsの達成に向けて日本が貢献できることの一つです。

本資料p.44

特設ページ「未来に向けて」掲載ページ一覧(全13か所)

ページ	タイトル	SDGsの目標
巻頭1-2	よりよい社会を目指して	全
p.27	情報通信技術を活用したまちづくり	11
p.28	伝統を受け継ぎアップデートしていく	—
p.52	偏見や差別をなくすために	10
p.73	多様性を認め合う社会へ	5・10
p.113	地域の活性化と持続可能なまちづくり	9・11
p.114	若者の政治参加を促そう	16・17

ページ	タイトル	SDGsの目標
p.178	環境保全への取り組み	12・13
p.179	自然災害から社会を守る社会資本の整備	9・11
p.180	暮らしの安全を守る日本の技術	8・9
p.213	脱炭素社会の実現に向けて地方公共団体の挑戦	7・13
p.214	持続可能な社会に向けて大阪・関西万博	9・17
巻末2-3	防災・減災を通じた社会参画	11・17

コラム「未来に向けて」掲載ページ一覧(全13か所)

ページ	タイトル
p.7	情報化と防災・減災
p.9	多文化共生の取り組み
p.11	子どもと高齢者がともに過ごす
p.15	伝統文化を受け継ぐ
p.51	アイヌ語への思い
p.137	ビッグデータを生かした経営戦略
p.139	障がいがあっても働ける場を
p.151	フィンテックで便利になる生活
p.161	エネルギーの消費量がゼロの建物とは？
p.191	パレスチナ問題の解決に向けた努力を
p.197	プラスチックごみと海洋汚染
p.199	水素エネルギーの可能性
p.201	エシカル消費に取り組もう



学校で使うチョークなどを製造・販売するN社は、従業員の約7割が知的障がいのある人です。N社ではそれぞれの理解力に合わせて、作業工程を工夫しています。例えば、チョークを入れるだけで品質検査できる器具を用いるなどして、社員の能力を引き出す環境づくりに努めています。

ポイント

コラム型の「未来に向けて」は、本文の学習内容を、6つのテーマからさらに深められるようにしています。

↑p.139